

2021年2月15日

株式会社マクネット

## 逆風下のインドア飲料自販機市場をまとめる

**2020年のインドア自販機セールス市場は2Qを底に徐々に復調、2021年の下期にはコロナ前に回復すると予想。一方、6%の事業所で自販機撤去を検討中。**

2020年のセールスは19年比▲18.1%に低下も21年は19年比▲2.9%までに回復

自販機は39万4千事業所に135万9千台が展開

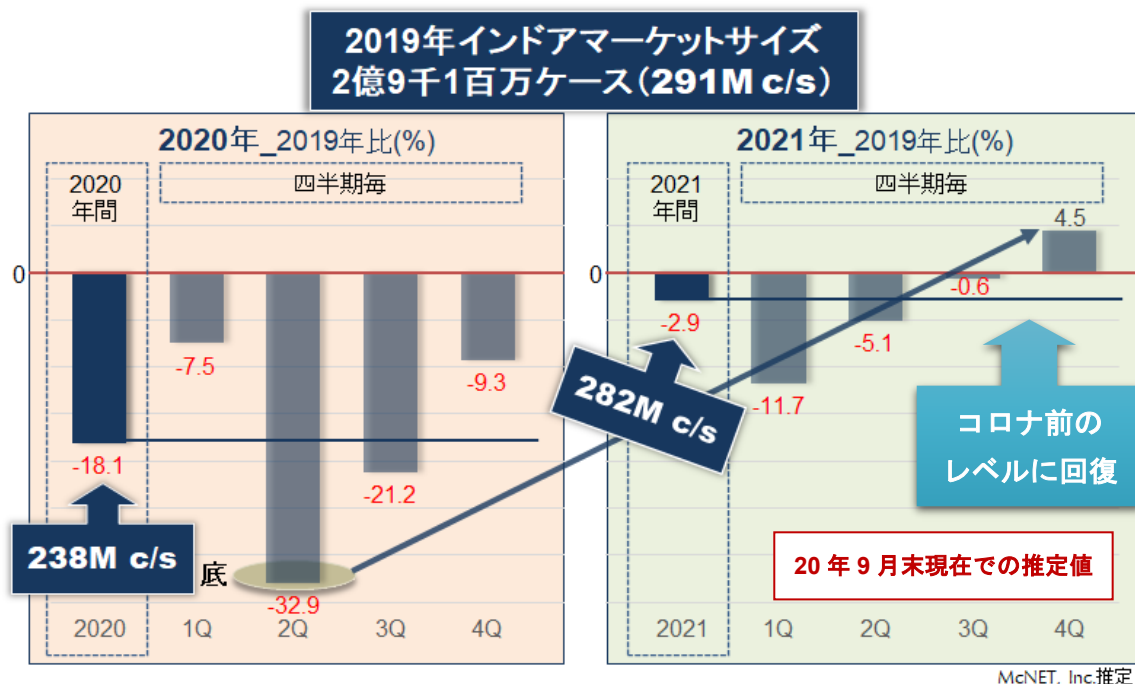
台数シェアはコカ・コーラ/FVグループが31.9%、サントリー/JBグループが24.4%

株式会社マクネット(本社:東京都千代田区、代表取締役中村与志也)は、コロナ禍にあって市場が大きく低迷している飲料自販機のインドア市場をまとめました。

調査はインドア事業所のオーナーや担当者、業界関係者に対し7,000を超えるアンケート及び150件の面接取材を実施した結果を分析・検証したものです。調査・分析期間は20年7月~10月。

今やインドア自販機はアウトドア自販機よりも展開台数が多く、飲料業界にあって大きな収益源でしたが、コロナによる就業形態の変化やイベントの延期・中止により、市場は大きく低迷しております。本調査分析は現状のインドア自販機市場を整理し、今後の動向について分析しました。

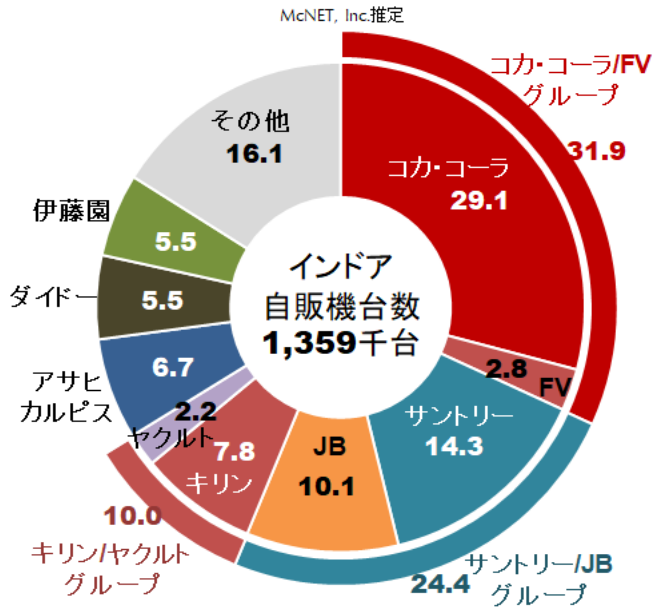
### ケース(箱)セールス市場: 四半期別 19年比



2019年のインドア自販機市場規模は2億9千1百万ケース(箱)と推計されるが、2020年はCOVID-19の感染拡大により、大きく前年を下回り19年比▲18.1%の2億3千8百万ケースで着地したと推定される。

しかし、20年2Qを底にセールスは徐々に回復、ロケ先である各業界ではwithコロナへの対応力を見せると共にニューノーマルに順応することで2021年の3Q以降にはコロナ前のセールスレベルに戻る。

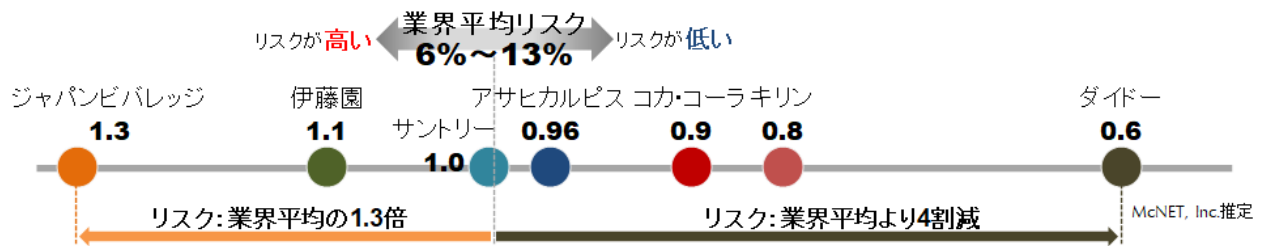
## インドア自販機台数シェア：自販機「のれん」ベース



今回調査対象とした我が国の約 469 万事業所の内、インドア自販機は 39.4 万事業所に設置され、1,359 千台が展開されていた。

自販機の台数でトップシェアを獲得しているのはコカ・コーラ/エフヴィグループで 31.9%。コカ・コーラ単体でも 29.1%と高いシェアを獲得。2 位は 24.4%でサントリー/ジャパンビバレッジグループ。サントリーは単体だと 14.3%だが、インドアを中心に展開するジャパンビバレッジを加え、コカ・コーラを追撃している。キリン以下のメーカーは、単体としてのシェアは 10%以下だが、相互商品供給によって商品の提供機会を増やしている。

## 自販機、ロケ喪失のリスク：業者ベース



自販機の撤去を考えている事業所は 6~13% (検討中ロケ: 6%、+態度を決めかねているロケ: ~13%) であった。これはコロナの影響により自販機のセールスが落ちたことが主要因であることが分かった。この 6~13%に当たる事業所の撤去リスクは、20 年 3Q~21 年 3Q の一年間に発生する可能性が高いと分析される。

大手の業者の内、一番そのリスクが高いのはジャパンビバレッジで、そのリスクは業界平均の約 1.3 倍、ジャパンビバレッジがオペレーションする自販機(自社機以外含む)が設置されている事業所では 8~16%が撤去リスク対象のロケーションと推定される。一番リスクが低いのはダイドーで業界平均の 6 割、4~8%。

## 調査方法と有効票数概要

アンケート対象: インドアロケ担当者  
 調査方法: Web 法、郵送法の併用  
 有効回答数: 7,383

取材対象: ロケオーナー、マーケットプレーヤ  
 調査方法: インデプスインタビュー(オンライン含む)  
 取材対象数: 151

調査・分析期間: 2020 年 7 月~10 月 調査主体: 株式会社マクネット

## 本件に関するお問い合わせ先

株式会社マクネット

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町 10 番地

X-Tech Business Unit 遠藤、牛込、志賀 電話: 03-5294-4410 メール: [info@i-mct.jp](mailto:info@i-mct.jp)

### 引用・転載時のお願い

報道関係者様: 本リリースの引用・転載時には、必ず弊社クレジットの明記をお願い申し上げます。

報道関係以外の方: 本リリースの引用・転載時には、必ず弊社承諾を得ることをお願い申し上げます。